

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	691500037
法人名	社会福祉法人長井弘徳会
事業所名	グループホームリバーヒル長井 おりづる
訪問調査日	平成 21年 4月 2日
評価確定日	平成 21年 4月 24日
評価機関名	協同組合オール・イン・ワン

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	691500037		
法人名	社会福祉法人長井弘徳会		
事業所名	グループホームリバーヒル長井 おりづる		
所在地 (電話番号)	山形県長井市中道2-2-37 (電話) 0238-87-4828		
評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市松町4-3-10		
訪問調査日	平成21年4月2日	評価確定日	平成21年4月24日

【情報提供票より】(21年 3月 16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	9人, 非常勤 人, 常勤換算 7.45人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	木造平屋建て	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

(4) 利用者の概要(3月 16日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	3名	要介護2		2名	
要介護3	3名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 84歳	最低	73歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立置賜総合病院 斉藤歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の経営する介護事業所とともに長井駅の近くに位置し住宅地の中でまさに家庭的な雰囲気を演出できる環境にある。事業所内も、天窓や床暖房を設置し、過ごしやすい施設になっているとともに、窓からは地域の生活が感じられるつくりとなっている。法人のこれまでの経験を活かし研修やマニュアルなど、開設一年目ではあるが整備は出来ている。運営推進会議は開所後経験が浅いこともあり事業所の報告や意見の交換に終わっているが、委員のメンバーも地区長・公民館長・老人会会長・隣人・市町村など多岐に渡り、今後の運営推進会議に期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回は初めての外部評価であり前回評価の改善点は無い。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は職員の話し合いから副主任がまとめ管理者が確認し作られている。管理者は、自己評価については自己チェックであり、事業所側、利用者側、地域の側に立った視点で事業所のサービスの向上を図る機会と把握している。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2ヶ月に1回実施されている。会議では、理念や介護保険制度をはじめ行事計画やヒヤリハット事例など事業所の状況など多岐にわたって報告がなされている。会議のメンバーは地域からは地区代表や民生委員、近隣者など幅広く参加しているが、利用者、家族代表は1名だけである。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 法人の苦情解決委員会によるアンケート調査を行い、その結果を受けて意見等に対応した。苦情等ははまだ無いが、解決のためのマニュアル等の整備は出来ている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の礼大祭、資源回収、文化祭など可能な限り地域行事には参加している。また、ボランティアによる大黒舞の際は、近所の方も一緒に参加いただけた事例もある。職員による地域への奉仕活動として道路等の清掃も計画されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年5月開所の折、職員全員でホームに泊まりこみ、一人ひとりの思いを込めて地域密着型の事業所のあるべき姿を集団発想法(BS法)を用い事業所の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員が迷った時には理念を振り返り理念に沿った方向に進むよう指導している。毎月のミーティングの際職員同士で話し合い、理念に沿ったサービスの提供に心掛けている。職員や利用者の目の届く場所にシンボルのおりづるとともに掲げており、職員は常に意識できるよう名札ケースに入れている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の礼大祭、資源回収、文化祭など可能な限り地域行事には参加している。また、ボランティアによる大黒舞の際は、近所の方も一緒に参加いただけた事例もある。職員による地域への奉仕活動として道路等の清掃も計画されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員の話し合いから副主任がまとめ管理者が確認し作られている。管理者は、自己評価については自己チェックであり、事業所側、利用者側、地域の側に立った視点で事業所のサービスの向上を図る機会と把握している。	○	初めての自己評価でもあり自己評価をサービス向上につなげるためにも、事業所のサービスを振り返り意義のある評価になるよう検証と具体的な取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回実施されている。会議では、理念や介護保険制度をはじめ行事計画やヒヤリハット事例など事業所の状況など多岐にわたって報告がなされている。会議のメンバーは地域からは地区代表や民生委員、近隣者など幅広く参加しているが、利用者、家族代表は1名だけである。	○	運営推進会議をサービス向上に活かしていくためにも、家族代表の増員など構成メンバーの検討を期待したい。また、消防や警察等の関係者にも参加をしてもらう機会などの検討も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	長井市主催の長井市サービス事業者会議に参加し、介護保険制度の問題点や課題についての共有を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時や、事業所便りの送付時に近況など、家族に対して報告は行われている。今のところ金銭管理については親族が遠距離にある特定の利用者だけ行っているが、その親族には定期的に金銭管理簿の送付を行い確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人の苦情解決委員会によるアンケート調査を行い、その結果を受けて意見等に対応した。苦情等はまだまだ無いが、解決のためのマニュアル等の整備は出来ている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来職員の異動はなかったが、今年度初めての異動があった。管理者は、職員が変わることは家族が変わるという意識にたって、引継ぎの機会を設けるなど馴染みの関係を大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、研修計画に沿って法人内の研修や外部研修に参加している。また、管理者等は年末に行われる職員の自己評価を用いて、個人ごとのスキルアップに繋がるよう配慮している。更に職員は各自年間目標をたて自己啓発に努め、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム協議会の交流研修に参加している。長井市のサービス事業者会議等を、地域の事業所との交流の機会ととらえ、職員の交流に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が「一緒に」をモットーに過ごしていく中で、料理の手順や味付け、野菜栽培など様々な経験を聞き教わることが多い。また、普段の会話の中で人間関係や接し方についても教わることもある。行事や外出等日常のイベントなどでは職員も一緒に楽しみ喜怒哀楽を共にし支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントはセンター方式を採用し、本人や関係者から話を聞き意向を把握している。利用前に家族にアセスメントシートを記入してもらい、利用後改めて把握に努め、日々の生活の中から希望、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や必要な関係者の希望、要望をとらえながら、計画作成担当者と職員の間でカンファレンスを行い介護計画を作成している。利用前の生活状況を重視し、遊技場に行きたい利用者に対してはその趣味を反映させたプランもあった。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回見直しを行うが、状況により毎月行った例もある。毎月行われるカンファレンスの中で、職員等の話し合いの中から現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	かかりつけ医は在宅生活からの継続であり、受診の際 は医療連携ナースが作成した受診時連絡票により受診 する仕組みになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	看取りの指針や意向確認についてはおおまかな仕組 みと文書がある。現在重度化された利用者はいない が、今後に向け検討中である。	○	重度化や終末期に向けた方針の共有については、今後 細部にわたる仕組みの構築が期待され、職員間の方針の 共有と、早い段階から利用者、家族との繰り返しの話し合 いと段階的な合意に向けた努力を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	運営の方針である、「利用者を個人として尊重し、プ ライバシーを守り、安心と尊厳のある生活」を実現するた め、個人情報保護に関する研修やコミュニケーションス キルアップ研修などを行いプライバシーの確保の徹底 に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者は、施設とグループホームの違いを重視し利用 者個人個人の生活リズムを重視するよう指示している。 一応の日課はあるが、利用者個人個人の状況に合わ せ自由に過ごせるようにしている。職員も帰宅願望の強 い利用者には、個別的に外出の機会をつくって気分転 換をはかるなど臨機応変に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は利用者も加わり、食事の準備、片付けも「一緒に楽しく出来るように」をモットーに職員と利用者が一緒に行っている。献立も一緒に相談するが、特に利用者による「リクエストメニュー」や誕生会の献立なども取り入れ、食事を楽しむことができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴時間は午後と決めているが、要望があれば午前中でも入浴できる。その日の体調にあわせ、無理強いせず対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や日々の会話などから一人ひとりの経験等を活かせる場面を提供できるよう心掛けている。個別的に遊技場や喫煙なさる方のために外出や散歩、馴染みの店への買い物等楽しみごと気晴らしへの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや、買い物、公園などに皆んなで出かけたり、個別的に対応したりそれぞれの希望、状況に沿って外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	原則として鍵はかけない。夜間は安全に配慮し玄関の鍵は掛けるようにしている。利用者の傾向の把握も出来ており、声かけや一緒について行く等安全面への配慮をしている。玄関にはセンサーがあり、不測の事態に対応できるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施しており、連絡網や火災、地震に対応するマニュアルなども整備している。	○	事業所は住宅地の中に位置し、近隣住民の協力を頂けるよう働きかけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分チェック表を用い個人毎に把握している。食事メニューは法人内の管理栄養士から点検してもらいアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは使いやすいように配置されており、居間食堂は両側に大きめの窓を設置し、中央の廊下には高い天窓を配置し柔らかな日差しを受けて広々とした空間が演出できている。畳の部分を作りくつろげるように配慮されている。季節感のある飾り、いけばな等も配置され居心地よく過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に本人・家族の希望があれば使い慣れた日用品等も持ってきてもらっている。テレビなどの持ち込みも構わない。それぞれの気に入った飾り、写真などを配置した居室であった。		